

ぶらたなす

NO.9

師走

(しわす)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2024.12.23

雪降る12月

12月ということで雪が降り始め、寒さが本格的になってきました。家の中で過ごす時間が多くなるこの時期は読書をするのにぴったりです。温かい飲み物を片手に毛布などにくるまって本の世界に浸れます。また、この一年を振り返ってみてまだ読めていない本や興味があるけれど手をつけていなかった本に挑戦してみるのもいいでしょう。年末に向けて忙しくなりますが、そこで短編集や詩集など少しの時間でも楽しむことができる作品もおすすめです。触れたことのないジャンルを手取ることで、新しい視点や考え方を得ることができるかもしれません。

みなさん、この冬は体調管理に留意して健やかに過ごしてください。

(1-4 図書委員)

図書委員のおすすめの本

『匿名』

柿原朋哉：著
講談社

渋谷の屋上で命を絶とうとしていた越智友香は街頭ビジョンから流れてきたFの声で友香の声は救われた。友香はFの想いが生きる原動力となり、Fの追っかけになった。しかし、彼女は覆面アーティストだと知ることになる。感謝を伝えるためFを追い続けた友香は、衝撃の事実と向き合う。

この本は現代によく使われるSNSを題材としている。友香はFに心を救われて、感謝の気持ちが湧いていたが、実はFは昔友香がいじめていた相手だったことが分かり、変わっていく2人のリアルな心情がとて考えさせられる。

現代のリアルな考えさせられる話が好きな人におすすめ。

(1-4 図書委員)



図書館長より

押忍！ 図書館長です。私は今、3年次生の一部を対象に、共通テスト攻略に向けた指導の真っ最中だが、古文の分野で×××が出るのではないかという予感が、漠然とだが、確かにしている。センター試験と呼ばれていた当時も、『○○○○』のような×××が登場することはしばしばあったが、新たに共通テストとなって、従前とは違う形式ではあるが、今後、×××からの出題が増えていくと、この道20年の勘（ゴースト）が囁くのだ。

……なーんてね！ 伏字の中身が知りたい人は、職員室にどうぞ。いや、そんな、勿体を付けるような話じゃ、全然ないんだけどさ。

さて、そんな訳で、今回紹介するのは、×××を楽しく学べる名著、杉田圭（すぎた・けい）の『超訳百人一首 うた恋い。』（KADOKAWA）だ。『百人一首』に収録された秀歌それ自体はもちろん、詞書や詠み手にまつわる逸話なども下敷きとして、大胆な翻案を施しながら、平安朝の恋模様を鮮やかに描き出している。12年にはアニメ化もされた。

『百人一首』の選者である藤原定家をはじめとして、紫式部、清少納言、藤原道隆（「粟田殿」の兄で、中宮定子の父）、菅原道真（全国の「天満宮」に祀られている人神）、等々、錚々たる面々が揃い踏みだが、私の一番のお気に入り、在原業平・小野小町・文屋康秀の、人呼んで「東下り三人衆」だ。彼らは皆、本朝を代表する歌人「六歌仙」のメンバーだが、業平は『伊勢物語』の「男」のモデルとして、小野小町は世界三大美人の一として、現代でも抜群の知名度を誇っている。康秀は……うん、康秀だね（ひどい）。

この世には、変わらないもの（＝不易）と移ろいゆくもの（＝流行）がある。恋すなわち孤悲（＝I miss you）は、前者の最たるものだ。口を開けば「受験！ 受験！」な私だが、我々が古典を学ぶ意義はこれに尽きると、実は思っている。本作が君の古文アレルギーを改善させる一助となったら、とても嬉しい。